石桜新聞

発行所
盛岡市仁王田圃
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会新聞部
責任者 荒川義弘
印刷所
河北印刷株式会社

本年度石桜会役員決まる
会長は宮野君に

◇…規約改正二年目、昭和三十八年度石桜会役員も宮野君（三・C）を会長に各執行委員、HR役…◇
◇…員も決定、早くも活動を開始した。即ち四月十一日HR役員を選定し、十二日合同委員会を開…◇
◇…き各委員長を決定、四月二十六日、各ホームルームで選挙を行い会長、副会長、書記、会計の…◇
◇…各執行委員を決定した。一方応援団も吉田君（三・C）が団長として就任、今後、九月までの…◇
◇…五ヶ月間伝統と責任の石桜会を背負つて行く事になつた。……◇

執行委員会

▽会長　宮野忠
▽副会長　谷地三知也、二上憲育
▽書記　大木研一、井川隆夫
▽会計　吉田万悦、千田和夫
▽委員　上野宏、工藤正身、荒川義弘、高橋清孝、佐藤正、佐々木勲、吉田繁美、昆彰生

生活委員会

▽委員長　上野宏
▽副委員長　滝浦弘士、村上誠
▽委員　太田智久、長内一三、木村昭三、川口和雄、滝浦弘士、上野宏、村上誠、根本鶴二、相馬明、白沢満、佐々木重道、主浜隆男、金沢壮介、下坂和孝、石川準吉、菊地卓夫、谷藤芳常、大家雄一、武藤孝夫、佐久山圭一、高橋克彦、川村記年

学習委員会

▽委員長　工藤正身
▽副委員長　大坪光弘、小野寺康悦
▽委員　高橋玄治、新里考三、鎌田篤七、水原秀行、工藤正身、大坪光弘、佐々木嘉市、福田興一、山崎賢治、和泉康一、餘目英男、矢羽々一雄、小野寺康悦、及川勝夫、須藤一憲、宮伝、古山明広、広瀬勉、池田幸穂、阿部政雄、工藤和夫、室岡好祐

出版委員会

▽委員長　荒川義弘
▽副委員長　熊谷正臣、駒木藤男
▽委員　駒木藤男、吉田建阿部泰昭、赤沢征男、熊谷正臣、荒川義弘、岩田明、藤井昇、菊地安信、谷村信一、米田敏男、千葉哲夫、熊谷修二、泉山栄一、和合勇、佐々木明徳光、高橋秀彦、熊谷隆鎌田弘、佐々木薫、浅田幸、三浦公成

図書委員会

▽委員長　高橋清孝
▽副委員長　小笠原俊政、畠山重雄
▽委員　田沼宝史郎、田中徳三、玉山幸男、高橋清

執行委員会

▽会長　藤沢牧夫

体育委員会

▽委員長　佐々木勲
▽副委員長　赤沢征男、熊谷啓介
○陸上＝佐々木勲○庭球＝吉田武司○籠球＝船越準平○野球＝熊谷啓介○ラグビー＝立花勲○体操＝木村昭三○スキー＝松本義男○柔道＝川原周二○剣道＝赤沢伊五沢暁、平野均、鈴木征男○水泳＝小田原良一○俊明、田村鳶、高木康文卓球＝峠徳美○排球＝松崎畠山重雄、佐藤康逸、藤美雄、八角正悦、小田耕輝海○ホッケー＝梅沢司、中川裕治、熊谷慶治○スピード＝鈴木稔○山岳田口実、沢山忠俊、伊藤博幸

文化委員会

▽委員長　佐藤正
▽副委員長　宮野忠、重石均
○演劇＝赤沢良○映画＝牛崎一行○書道＝赤沢征男○英会話＝畠山厳○音楽＝重石均○弁論＝加茂圭基○絵画＝村上誠○写真＝佐藤正○物理＝寺忠弥○化学＝宮野忠○生物＝小川和也○地学＝中軽米久平○PFC＝井川隆夫○JRC＝福田繁○杜研＝熊谷正臣○新聞＝荒川義弘

応援団役員

▽団長　吉田繁美
▽副団長　昆彰生、阿部考、遠藤教穂、豊岡政信
▽幹事　佐々木勲、川原周二、長内一三、梅沢輝海立花勲、藤田潤一、熊谷啓介、佐々木謙四郎、吉田万悦、滝田純夫、高田耕一、小笠原秀孝

代議員会

三A　高橋茂樹、昆彰生
三B　小笠原俊政、藤沼末治
三C　高橋光洋、畠山厳
二A　井川隆夫、二上憲育
二B　田中義朗、佐々木宏
二C　伊藤良二、小野義郎
二D　大木研一、田沢圭之助
一A　内沢滋、藤岡範夫
一B　吉岡成夫、藤根考夫
一C　米谷泰夫、向井田久志
一D　高橋弘一、藤田武彦
代議員会
三甲　高橋昭夫、稲村吉則
三乙　藤岡知昭、岩本重広
三丙　似内光夫、谷藤広二
二甲　福田均、山内知男
二乙　三田地泰司、小山田栄一
二丙　田中健一、小幡久

中学は藤沢君に

▽副会長　岩崎一則、細田慶次郎
▽書記　佐藤勝広、斉藤克矢
▽会計　小笠原進、目時泰行

生活委員会

▽委員長　大森雄治
▽副委員長　枕浜一夫、高橋充

学習委員会

▽委員長　斉藤修司
▽副委員長　佐藤勝広、平賀継雄

出版委員会

▽委員長　清水正信
▽副委員長　大沢明、高橋知重

図書委員会

▽委員長　館野正治
▽副委員長、宮本達郎、宮重忠

文化委員会

▽委員長　佐々木享二
▽副委員長　岩崎一則、兼平孝行

体育委員会

▽委員長　斉藤進
▽副委員長　橋本博、平賀継雄

応援団

▽団長　中村一
▽副団長　大城錫充、長沼正知

校内散歩

ここもラッシュ（？）まったく近ごろは学校へ乗って来る自転車の数もふえて（？）自転車小屋に入らないというしまつ。どうにかして下さいというのは学校側、頭が高いのは生徒の方、ナンベン言ってもわからないとは誰かの言〃空いている所へ入れちゃえ〃というのまで出て来る始末。（歩け歩けとはケネディさん）これでは以前と同じである。はいや、まったく自転車の方が泣きべそをかいているようですな。

三時間目にメシを食うやつまで出て来る五月。休み時間いっせいにプールのまわりに集まってなにやら雑談（エッ、ナニ、チョット）休み時間屋外に出る事はいいことである。（ウン、ココナラ、ガイシュッケンモイラナイ）しかし、もうすでに何人かが服を着たまま泳いだとか、まあ、気をつけて下さいよ。

写真はプール附近

論説
宮野忠

私がこの石桜会の会員になって以来早くも五年間が過ぎ、岩手高等学校の最上級生として今年一年間生徒会の指導的立場におかれて私が果してどれだけこの重任に対処し得るか私自身確信を持てませんが、今生徒会の会長となつてより一層痛感することは、私自身そうでした、例えば何か「集まりがありますよ」と知らされた時あまり自分から集まりに出席しようと思つたことがありませんでした。

今考えて見ると自分一人ぐらい集まりに出席しなくとも困ることもあるまいと思っていたのでしょう。その結果は考えるまでもなく会の進行に悪影響を及ぼして円滑に行うことが出来ず上級生の方々には御迷惑をかけ申し訳ないと思っております。現在私達の生徒会においても同様に九百名余りの会員のうち一名たりとも生徒会運営に無関心であってはいけないしまた全員が一つのブロックとなって物事を進めるということが必要かと思います。事実今までの生徒会もこの点で困ったこともあったでしょう。生徒会には計八つの委員会が設けられていて、夫々実施された新規約には私達の勉学や学校内での活動に合った自主的なものであるべきものであると思います。

生徒会は規約に定められている通り（会員の親睦と健全なる自主活動の促進を図り学校生活を通じて将来良き公民となる素質を養う）という目的のもとに作られ、それに関する事業を遂行する機関ですが、これの存在は私達にとっては学校内の生活に、或いは学生の心の糧として絶対に欠くべからざるものであると思うことを再認識すべきです。

なぜなら私達は学校における毎日毎日を精いっぱいの勉学を重ねて過して行くには、むしろこの機関を有効に利用し自分なりの何もしもしそのの中の一つがそのなりはこわれてせっかくのかけ申し訳ないと思っております。現在私達の生徒会においても同様に九百名余りの会員のうち一名たりとも生徒会運営に無関心であってはいけないしまた全員が一つのブロックとなって物事を進めるということが必要かと思います。事実今までの生徒会もこの点で困ったこともあったでしょう。生徒会には計八つの委員会が設けられていて、夫々実施された新規約には私達の勉学や学校内での活動に合った自主的なものであるべきものであると思います。

生徒会は規約に定められている通り（会員の親睦と健全なる自主活動の促進を図り学校生活を通じて将来良き公民となる素質を養う）という目的のもとに作られ、それに関する事業を遂行する機関ですが、これの存在は私達にとっては学校内の生活に、或いは学生の心の糧として絶対に欠くべからざるものであると思うことを再認識すべきです。

なぜなら私達は学校における毎日毎日を精いっぱいの勉学を重ねて過して行くには、むしろこの機関を有効に利用し自分なりの何もしもしそのの中の一つがそのかきっと出来るはずだから機関もだいなしになってしまうことを心に深く銘記するよう心がけてほしいと言うことです

新入生に聞く 新入一ケ月

1・D　今村紀明

僕たち新入生は、三月三日の入学テストの結果によって選ばれて、入学してきた。岩高についての、第一印象は、「きたない」校舎内が、きたない。汚れているとそう思った。その後入学式の日、他校から来た人たちは、数人の人は別として、たいていこのあいだ中学校を卒業してきた人たちであろうと僕は思った。

そういう人たちは、少なからずとも、入試の為の勉強をしたであろう。自分の日々の努力の結果合格し、その実感というものは、入学式の日に、本当に自分にそれがわきでるのでは、ないだろうか。

僕は、そう思う。

そして、入学して次の日登校すると同時に、不安が感じられた。それは、まだ友人がいないためだろう。岩中から上ってきた人たちはなれているからよいであろう。しかし僕たちの場合、校風にはなれなくてはならないし、友人も、また、新しく始まる高校の授業も、いろいろの面で不安になってくる。でも、二、三日たてばなれてくるようであった。

それから話しは、変るが、僕たちの中学のころには、先生は、男の先生も、女の先生もいらした。ところがこんなことをいっては失礼かもしれないが、女の先生が見あたらなかった。事務の方が、御一人いらしやったきりだった。初めは、妙な気持だったけれど、だんだんなれてくると、かえってその方が岩中、岩高らしいのではないだろうかと、このごろ考えている。

ところで、僕の思うには岩高においては、意外に市外の人が、多いように思う。僕の早合点かもしれないがそれは、この学校が私立であるということが、多分に影響していると思う。

僕は、私立の高校は、好きである。であるから、秋寒としたうす暗い室での第一日は、何となく落ち着かずに過ごしてしまった。

話しは妙なあいになったが、この辺で僕の岩高に対する感想やら、自分の持っている意見やら、いろいろぐだぐだと書いたが、この辺で筆をおきたいと思います。

× × ×

× × ×

一年生となって

1・D　広田信雄

入学式を終えD組に入る。しばらくして小柄な先生が入って来られた。ひじょうに好感の持てた石塚先生でにこやかな表情を離さない。

入学前から、高校生になるとほとんど自分で勉強していかなければならない、ということは聞いていたが、まさにその通りで、最初から特急並みの〝進略方法〟これにはちょっとまごついた。

先生の中でも、おとなしい先生、ユーモアたっぷりの先生、秀頭の先生、ノッポの先生、このように見て初めは先生方の展覧会のような気持で楽しんでいたった。

しかし日がたつにつれてボッボッテストをするようになってくると、展覧会ばかり拝見してはいられなくなった。真面目に聞いていないと遅れるからだ。

予習をやって来ない時などは先生から指名されても答えられなかったりする。やはり、高校生になったのだから自分でやっていかなければ学校に追いついてはいけないと思う。

それでもテストのある日などは、真けんな表情で教科書とニラメッコをしている。一点までガメック取ろうとしているのだろう。自分もみんなを手本としていきたいと考えている。

やさしい先生

1・D　山崎雄司

私は、岩手高校に受験するまでこの学校がどこにあるか、またどんな学校であるかわかりませんでした。

そして、不安のまま入試テストを受けにきて、校舎に入ってすぐなだか校舎内が暗い感じを受け教室にはいりました。

いよいよテストがはじまると先生方がなんどもかたくならないようにおちついて書きなさいといわれ、なかなかよい先生方がいるなあと思いました。

けれどいいのは先生だけでなく先輩もいろいろ気をつかってくれ自分達が受験した時などのようすをお話してくれたりし、なかなかいい先輩だなあと思った。

それから入学式を、おえていよいよ学校生活が始まりました。ここで私がおどろいたことを、二、三上げてみますと、まず第一に土足である。まるで土足をするのが普通であるというような顔をしているのを見てがっかりした。やはり、清潔上からいっても、また校舎を大事にする点からも私は思う。第二に、窓からチョークやッパや紙等をなげたり、すてたりすることだ。これもやはりやめた方がよいと思う。

それから私には、不安がありました。それは、私が早くクラス内のふんいきになれることができるだろうかということです。やはり土足でまずは、なかなかはじめのうちは、なかなかするようなまわりにとけこむことができなかったのですが、まわりの人達がいろいろしらない人達ばかりで、いることなどを、おしえてくれているうちに、自然話したりしていくようになっていくので、この分ではすぐになれると思っている。

先生方、先輩、クラスの人達は、みんな親切で、よい人達ばかりです。これからも、なにもしらない私達を、よい方にお指導ください。

雑感二題

菅野照雄

芥川竜之介は「侏儒の言葉」の中で次のように言っている「あらゆる古来の天才は、我々凡人の手のとどかない壁上の釘に帽子をかけている。尤も踏み台はなかった訳ではない。」「しかしあの言う踏み台だけはどこの古道具屋にも転がっている。」

僕はこの言葉を次のように考えている。天才というものは凡人より一歩考えの進んでいる人のことを言うのであるが、そのためには何か自分の思考に資するものをどこからか取り入れて来ている。しかし、その踏台になるものは、だれもがガラクタとして、気にもとめないで見逃しているものだ。即ち、だれの注意もたかないようなガラクタからでも何か自己向上に資するものを見つけ出すことのできる人、言葉を換えて言えば、ものごとに細心の注意をはらえる人が天才なのだということである。

このことは、諸君にも十分考えてもらいたいことだと思う。自分をよくみつめ何ごとにも細心の注意をはらって、すべてのものからも自己向上に資するものを見つけだそうとする態度、これが天才に通ずるものであるとすれば、諸君もこのような点を十分注意して毎日の生活から何かを学び取って行くならば、十分天才になり得るわけである。

このことは、学校に於ける授業の際にもあてはまることであると思う。諸君の注意する事なく次の問題に進んでしまう。そして複雑な問題にぶつかると最初からあきらめる。というような傾向が強いようである。

しかし、複雑な問題というものは簡単な問題が組みされてできているものであるから簡単な問題をよく注意し、それを整理しておくことによって、また、複雑な問題を分解してその各部分に、これまでに得た知識を適用して行くならば、完全には解けなくとも、ある程度までは解決されるのではなかろうか。

このようにして、他人が簡単に見逃すような単純な問題からでも次の段階に踏み出す基礎としていくような態度を諸君が取って行かれるよう望んでおきたい。

次に、先日の新聞に次のような記事がのっていた。それは、「ある人は五行の対数表を全部暗記しているそうであるが、その人の友達は全然そんなことはできない。しかし、前者は会社の事務員で自分の仕事を満なカラリーマンであるのに対して、後者は有名な統計学者だそうである。

前者は自分の頭脳を何百円かで買えるような事に使い、後者は自分の頭脳から莫大な価値を生み出しているのである。」という記事だった。

頭脳の差は各人そんなに異なるものではないということではあるが、(実例としては本田博士のように、一度は落第して自殺しようとした人が発奮して、次の時間を浪費している人々が諸君の中にいるように思われることを悲しむものである。

以上二つの事から考えて諸君に望みたいことは、何が自己にとってより重大な価値をもち、その重要と思われる方向に自己を高めて行くために、あらゆるものの中から細心の注意をはらって自己向上に資するものを見出す努力をしてもらいたいということである。

あることか。」を判断してより大きな価値を求めるべきではなかろうか。僕は、諸君が現在おかれている状態からして、その価値判断の比重は、当然勉強することに重きがおかれるべきであると思う。その観点からして、他事に貴重な頭脳と時間を浪費している人々が諸君の中にいるように思われることを悲しむものである。

社会の窓

何か自己向上に資するものを見つけ出すことのできる人、言葉を換えて言えば、ものごとに細心の注意をはらえる人が天才なのだということである。

このことは、諸君にも十分考えてもらいたいことだと思う。自分をよくみつめ何ごとにも細心の注意をはらって、すべてのものからも自己向上に資するものを見つけだそうとする態度、これが天才に通ずるものであ

一般的な学習傾向を見ていると、すべての部分を部分的に学習しているが、総合的な知識の整理という点に欠けるところがあるのではなかろうか。諸君は、簡単な問題であれば、それを適用して行くならば、完全には解けなくとも、ある程

新任先生三行アンケート

▽新任先生三行アンケート

一、経歴
二、趣味
三、教科

仲田辰次

一、昭和三十三年―公立沖縄名護高校卒業
昭和三十八年―私立法政大学文学部英文学科卒業
二、野球、水泳、空手（スポーツは何でも）
三、教科　英語

草島充弦

一、昭和三十年―小樽潮高校卒業

昭和三十四年―北海道大学水産学部卒業後、民間会社（京都）に一年数ケ月後、北海道三笠市にて三笠方各高校に三十六年に勤務し現在に変る。

一、スポーツ一般
二、主に生物
三、

高橋五一郎

一、紫波町に生れ盛農卒岩師専攻科を出る。湯本、松野、沼宮内、各小学校
盛工、岩谷堂高女、黒沢尻、一戸、各高校を経歴
二、釣をはじめ何でも好むが深入したものはない
三、数学

大学合格者

▽北海道大学
○三田地利之(理)
▽岩手大学
○七本田一善(農)、小島征帆(工機)、永井敏雄(農工)
○小林良雄(農獣)、東本幸男(学甲一)熊谷勉(特美)、駒嶺高幸(学甲二)
○岩手医科大学
○以内裕、三田俊夫
▽弘前大学
○渡辺洋一(学)
▽東北大学
○鈴木那彦(工)
▽山形大学
○永井敏雄(工)、高橋那明(文理)
▽茨城大学
○川村宏三(農)、駒嶺高幸(教)
▽東北学院大学
○晴山竜雄(経)、小林克夫(経)、吉田勇一(英)、佐々木晃(一部)
▽東北薬科大学
▽立花鉄夫
▽東北福大学
○佐藤信雄、樋沢晃
▽中央大学
○戸嶋征一(法)、三善孝司(商)、藤沢進(商)、浦田秀夫(商)、荒川雄介(商)、小笠原実(文)、中村洋彦(経)、田沢利彦(経)
▽早稲田大学
○千田文人(二部)、堀田尚志(第二部)、藤根和男(二部商)
▽順天堂大学
○似内裕(医)、山本定男(体)
▽日本大学
○三田地利之(工)、和村斎(法)、石井宏司(法)、中野結智(商)、大井正志(獣)、盛令中左工門(商)、道又和人(商)、桜小路典雄(法)沢田俊平(文)、山崎松兵(二部法)、細川市男(文理)、角舘栄幸(林)、八幡秀明(経)、伊藤吉彦、工藤善民(農獣)、川口喜之
▽専修大学
○藤原緯元(経)、杉江宏司
▽法政大学
○高宮国雄(経)
▽中央工学院
○吉田茂
○小泉俊逸
▽関東短大
○阿部孝
▽日本体育大学
○阿部忠、山本定男
▽東京経済大学
○日野杉和夫
▽明治学院大学
○小笠原昌爾(経)、佐々木由道(二部)
▽大東文化大学
○佐々木亘
▽東京農業大学
○原田耕平(経)
▽二松学院大学
○佐々木平
▽明治大学
○水本紘一(法)、斎藤和夫(二部法)、畑中紘一(二部文)、佐々木敏(農)
▽立正大学
○田口信之(仏)
▽工学院大学
○鈴木睦夫
▽関東学院大学
○武蔵野美術大学
▽愛知大学
○宇津宮功
▽上野古晨(経)
○鯉渕学園
○加藤孝雄
▽関西外語大学
○吉田那雄
▽国士舘大学
○藤村昌信
▽中京大学
○藤倉健吾(経)
▽立命館大学
○村上哲洋(経営)

名言

島のように軽やかでなければならない。しかし、羽は、いつも託びがらしたならぬ。善をなす場合には行くべきである。善ほど他人を傷つけるものはないのだから。

（ヴァレリ）

一般古書
売りよく・買いやすい
東光社書店
盛岡市紙町（上の橋ぎわ）

—各種印刷・タイプ印刷・製本—
河北印刷株式会社
盛岡市花屋町405　電話 代表 ③4256

1　1.4　2　2.8　4　5.6　8　11　16
上の数字はカメラの絞りです
F8はF5.6の1/2のF11はF8の2倍にあたります
つまりF5.6 1/500 とF8 1/250 F11 1/125 は露光指数は同じです
御存じの方にはわかりきったことですが一言
カメラとDPE　大通文化堂　盛岡大通 TEL②9716

市民の祭典

第十五回市民体育祭開かる

（写真は開会式＝岩手公園広場）

柔道、剣道に凱歌

剣道　完全優勝遂げる

剣道は、四月二十八日に武徳殿において開催された。試合は朝八時三十分より、四校十三チームが参加して行なわれた。

本校からは、団体戦には岩手A・B・Cの三チーム個人戦においては四人が参加した。（A）赤沢・菊池村井、（B）西郷・小山田笹村、（C）佐々木・伊藤高橋―これが団体戦における本校の出場者である。

岩手（A）は一回戦で盛岡商業（B）と顔が合い、三対〇と完勝して二回戦に進んだ。これにおいても三対〇と市立高（C）を全然相手にせず完勝した。それで準決勝に進出したわけだが、準決勝においても圧倒的な強さを発揮して、市立高（A）を下した。決勝においても強豪盛岡一高（A）に快勝した。それにしても一回戦から決勝迄の試合において、いずれも軽く下した岩手（A）の実力は無類であった。

個人戦は各校から四名ずつ参加して行なわれた。団体戦優勝で意気盛んな本校は、個人戦においても他校選手をよせつけず、村井が優勝で赤沢が第三位という好成績をおさめた。

ここにおいて本校は、団体戦優勝それに個人戦優勝をして、完全優勝を飾った。

▽一回戦
岩手A　3…0　盛商B
岩手B　1…2　盛一B
岩手C　0…3　市立A

▽二回戦
岩手A　3…0　市立C

▽三回戦（準決勝）
岩手A　3…0　市立A

▽決勝
岩手A　2…1　盛一A

柔道　抜群の実力発揮

柔道は、四月二十八日岩手公園下の武徳殿において六校二十四チームが参加して覇を競った。

本校からは岩手A・B・C・Dの四チームが参加した。優勝候補筆頭の岩手（A）は、どの試合においても圧倒的な強さを発揮して優勝した。一回戦、盛岡農業（C）に完勝。二回戦では盛岡商業（A）に辛勝して、三回戦即ち準決勝に進出した。準決勝は盛岡農業（A）と対戦し、これも一回戦同様に完勝して決勝に進出した。盛岡工業（A）と顔を合わせた決勝でも、本校が見事な技を見せ文句なく完勝して鮮やかしい優勝を遂げた。

岩手（B）の一回戦の対戦校は盛岡商業（B）で、本校の楽勝に終った。二回戦では岩手（A）に決勝で敗れた為に準優勝した盛岡工業（A）に、僅少差で敗れ上位進出がならなかった。

岩手（C）は、一回戦で盛岡工業（E）と対戦した。二対一と辛くも逃げ切り二回戦に進出した。二回戦では盛岡農業（A）と顔を合わせたが、技の差は如何ともし難く、ついに〇対二と盛岡農業（A）の前に敗れ去った。

岩手（D）は、一回戦不戦勝で二回戦に進出。盛岡工業（B）と顔を合わせた二回戦では、全く見るべき所がなく大敗した。

▽一回戦
岩手A　4…0　盛農C
岩手B　3…0　盛商B
岩手C　2…1　盛工E
岩手D　不戦勝

▽二回戦
岩手A　2…1　盛商A
岩手B　2…3　盛工A
岩手C　0…2　盛農A
岩手D　0…5　盛工B

▽三回戦（準決勝）
岩手A　4…0　盛農A

▽決勝
岩手A　4…1　盛工A

卓球　以外に振わず

卓球は、四月二十八日盛岡一高体育館において、開催された。これには七校八チームが参加した。この八チームが、結局は本校が辛勝して、二試合目に臨んだ。二試合目で対戦したのは杜陵高校で、一試合目とはうってかわって、本校が圧倒的な強さを見せて完勝した。

本校はBブロックに出場した。一試合目、本校は盛岡工業高校と対戦した。実力伯仲で接戦をくりかえしあった。本校には地の不利が災いして、実力を充分出しきれず、完敗した。それでBブロックでの優勝は、盛岡一高にである。

▽一試合目
岩手高　3…2　盛岡工

▽二試合目
岩手高　5…0　杜陵高

▽三試合目
岩手高　1…4　盛岡一

ラグビー

ラグビーは、四月の二十八日から二十九日迄の二日間、上田の黄金ラグビー場で行なわれた。一回戦は二十八日の十二時から、盛岡一高と対戦した。結果は本校が大差で敗れた。三位決定戦はその翌日、盛岡工業と対戦して敗れた盛岡農業と本校の間で行なわれた。この試合もまた善戦したが及ばず結局6…16と盛岡農業の前に屈した。

▽一回戦
岩手3〈3…0 / 3…8〉5 盛一

▽三位決定戦
岩手6〈3…5 / 3…11〉16 盛農

〔対盛一戦〕
試合経験者僅かに十五人中五人というメンバーで対戦。盛一は前半十二分強力ホワードに物を言わせて、陣方二十五ヤードラインから大峠とパスが渡った本校は、持前のうまさで大峠独走してトライなる。しかしゴールならず三点。その後皆んな良く頑張ったが、試合経験不足がたたって、結局十三対三で敗退した。

（写真は柔道の熱戦）

〔対盛農戦〕
盛一戦と同メンバーで対戦。前半十三分、二十五ヤードライン付近でルーズがでてTBパスで盛農トライゴールなり五点。それに対して二十一分味方が良く攻めてドロップアウトになりそれでキックしたボールをスタンドオフ立花がうまいチャージで押さえそのまま突っ込んでトライ、ゴールならず三点。その後も乱戦で結局六対十六で、昨日の盛一戦に続き完敗に終った。

操体　中西総合で二位に

体操は、去る四月二十八日に上田の盛岡体育館において行なわれた。参考までに言っておくと、体操はこの場合個人戦だけ行なわれ団体戦は行なわれない。

本校からは、高橋・勝政谷村・島田・伊藤・中西・吉田・田村・佐々木の九人が出場した。出場者全員が昨年の不振をばんかいしようと、はりきって競技に臨んだが、日頃の実力を十二分に出しきれなく余り振わなかった。しかし僅かに中西の準優勝が一際目立っていた。それで昨年同様に念願の優勝がならなかった。

成績は次の通り
②中西　四七・〇〇
勝政　三八・七五
高橋　三二・九五
谷村　三一・六〇
田村　三一・五五

陸上競技

陸上競技は、上田の県営グラウンドにおいて四月二十八日の一日行われた。本校では、男子百メートル一位の山田、男子走り高飛び一位の赤沢、男子巾飛び二位の小暮等の活躍が目立っていた。

記録は次の通り
◇男子百メートル
①山田……12秒0
◇男子二百ナートル
②藤田……26秒2
④井川……28秒0
◇男子四百メートル
②鈴木……57秒0
◇砲丸投げ
④佐々木……11m09
◇走り高飛び
①赤沢……1m56
（大会新）
◇走り布飛び
②小暮……6m08
（大会新）
③岡田……5m67
◇男子八百メートルリレー
④山田・岡田・小暮・藤田……1分41秒

バレー

バレーボールは、去る四月二十八日（日曜日）下小路中グラウンド特設コートにおいて開催された。

本校の一回戦での対戦校は盛岡農業高校である。

試合は本校優勢でくりひろげられ、頭徹徹尾押しまくり本校が大差をつけて一方的な勝利をおさめた。

続いて行なわれた二回戦においては、強豪盛岡商業高校と顔を合わせた。が、しかし健闘空しく、実力が余りにも離れていたので結局大差で敗退した。結果は次の通りである。

◇一回戦
岩手2〈15 / 15 / 10〉0 盛農
岩手0〈9 / 5 / 15〉2 盛商

バスケット

バスケットボールは、盛岡体育館とそれに盛岡工業体育館の二カ所において開催された。

本校の一回戦の対戦校は杜陵高校で、この試合は四月二十七日に、盛岡体育館において行なわれた。試合経過は、徹頭徹尾本校のペースでおし進められて、結局本校の楽勝に終った。

その翌日の二十八日に行なわれた二回戦に駒を進めた本校は、優勝候補筆頭の強豪盛岡工業と顔を合わせた。昨日とは場所が盛岡体育館から盛工体育館と変わって行なわれた。その為に盛岡工業の強さ、それに地の利が幸いするが故に、本校にとって、試合前から苦戦は免れない事がわかっていた。試合はすっかり相手のペースにのみこまれて実力を充分出しきれず、健闘むなしく敗退した。

◇一回戦
岩手　60…30　杜陵

◇二回戦
岩手　40…60　盛工

軟式野球　準決勝まで進出

軟式野球は、四月の二十一・二十七・二十八・二十九日の四日間、盛岡市営球場において華やかに開催された。

我岩中の軟式野球は、この二・三年来全く低調であった。それで低調から脱出する為に是非とも、この大会において好成績を収めなければならないという自覚を、各自が胸に秘うて試合に臨んだ。

我岩中は一回戦は不戦勝で、二十八日の二回戦に臨んだ。試合は午後一時開始で、対戦校は下小路中である。これは三対〇と我岩中の快勝に終った。三回戦即ち準決勝に駒を進めた我岩中は、強豪仙北中と対戦したが、結局一対三で惜敗した。

▽一回戦
不戦勝

▽二回戦
岩手　0 0 3 0 0 0 X
下小路　0 0 0 0 0 0 X
0 3×

▽準決勝
仙北　0 0 0 0 0 0 1
岩手　0 1 0 0 0 0 0
北　0 0 0 0 3 0 X
3×1

編集後記

梅雨も近くなり我々新聞部員一同張り切って第一号を完成させましたが、次号からはより一層御期待にそうような新聞を作って行きたいと思います。

発行に当って御協力下さった方には部員一同感謝しております。

「部員以外は各部員室に入室厳禁」

あらゆるスポーツ用品
藤沢体育堂
盛岡材木町　TEL ② 2432・0866　から
花巻市吹張町 TEL 1141
サンビルデパート TEL② 1445

文具・紙・事務機・金庫
坊っちゃん文具店
盛岡市本町260番地
電話 ② 4532 番

ボタン・帽章・学帽
専門の店　三栄帽子店
盛岡市仁王通り　TEL (2)5342

文芸

追憶の彼方に
修学旅行終る

三月二十七日

持ち望んでいた旅行でしたが、当日になっても実感の湧かぬまま、諸先生方の見送りを授けて、十二時三十分上野行の汽車に乗り一路東京へと向いました。本校修学旅行には必ず雨が降るという伝説(?)を裏切って旅行日より、車内では初め、故郷を離れる淋しさのためかみんな緊張していた様子でしたが、それにもまして、修学旅行への期待が強く次第にそれもほぐれ車中に於ては、トランプ、将棋などに興じて、白河を過ぎても、白河夜舟どころか、徹夜組続出、遂に一睡もせず上野へと。

三月二十八日

眠い目を上野駅に、四時三十分に着き、国電で東京駅行き、夜来の不眠、加えて空腹、目をこすりながら駅洗面所で行列洗面、駅で約一時間の自由行動がありました。大半の人は駅から近い皇居に行った様ですが早朝の東京は、非常に静かで気持ち良く、あのすさまじいラッシュが起こるとは想像もできませんでした。

後で再び訪れる東京を後に八時六分発準急「東海二号」に乗りこみ、最初の見学地名古屋へと向いました。しかし昨日のつかれのためか多数の人が車中において眠っていた様でありましたが、途中では、きれいに並校修学旅行には必ず雨が降んでいる茶畑や、黄金色の実をつけたミカンの木などが北国の我々の目を奪いました。（この黄色いミカンも子守唄となったようです。）

名古屋へは、十三時三十八分に着き、駅前より、観光バスで、名古屋城と、中部火力発電所、名古屋市内を見学し、それから鉱山脈を越えて、大津まで行き、宇治などを通り、そして明日の見学地、奈良へと向いました。

名古屋城では、名高い金のシャチホコも、下から遙かに眺めただけで、ちょっと実感が出ませんでした。

ところでこの晩、奈良着は六時半の予定でしたが、観光社の計算違いとかで、十時近くに着き、自由行動なし、おそい夕食、これにはみな閉口した様子でした。

古都　奈良　京都

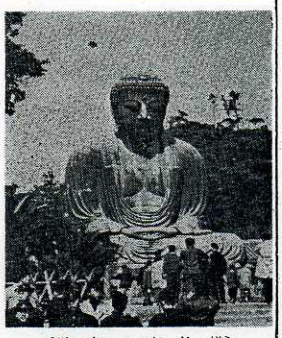
三月二十九日

時々春雨の降る中で、奈良公園の徒歩見学から始まりました。杉の大木の茂る中に、鹿の姿を見た時は、奈良だなあという感じが強くしました「春日とうろう」で有名な春日神社を参拝して、若草山のふもとの所で休息して二月、三月堂と世界最大の木造建築である東大寺大仏殿と仁王像の安置されている南大門を見学し、次にはバスで、唐招提寺鑑真の建立された唐招提寺天武天皇の御夫婦愛のしのばれる薬師寺、聖徳太子の依頼によって建立された法隆寺の五重塔、金堂、講堂夢殿を見学、荘厳で優雅な古代文化をしのび、阪奈有料道路を通り、鉄筋コンクリート造りの、博物館と言ったほうがふさわしい様な大阪城を見て、いよいよ最大の見学地、京都へと向いました。このバスの中では昨夜からの疲れが出たのかガイドさんの話しかけにもみんな沈黙がちで、先生に気合いをかけられる場面もありました。

〔薬師寺の三重塔〕

三月三十日

は、ちょうど次の日に、私鉄のストが行われるというので、この日一日で、二日分の見学をしてしまうという強行軍になりました。朝八時から千一体の仏像の安置されている異様な感じのする三十三間堂、又三十三間堂というのでお堂の間口が三十三間なのかと思ったら、「実際は六十六間」三十四本の柱の間が一間でなく二間なのである。日に照らされ、まばゆいばかりに光り、古風美を鏡湖池にうつすらとその姿を写している金閣寺、明治二十八年に平安遷都千百年を記念して平安京大内鹿大極殿の様式を模して造営されたという平安神宮、天皇の住居とされ、又昔から重要な儀式が行なわれて来たという京都御所を訪問ひのきぶきの特有なカーブを描いている紫宸殿の屋根とその建物の両側にある右近の橋、左近の桜と白砂で整備された庭とを見、舞台造りで有名な清水寺では、京都市内が見渡された。京都市街を次々に見学し、午後からは眼下にほんのり見える琵琶湖を眺め、比叡山ドライブウエイで四十分余りの快適なドライブを楽しみ、観光設備の整った比叡山の展望台から京都と滋賀の町とを心ゆくまで眺めた後、その足で石山寺を見学、石山寺は名のとおり奇妙な形をした岩の上にお寺が立っていたことでした。石山寺から宇治川にそって、藤原時代の建築物である宇治の平等院を見学、六時近く旅館に着き又七時からは、東山ドライブウエイで、百万ドルの京都の夜景を眺めて遂に京都見学も大半終ったのですが有名な神社仏閣やすばらしい眺めも、余りスピィーディに回ったのでスライドでも見た様な感じでした。しかし京都の町は古い文化遺産が現代文化の中に、しっくりと融合していて、気持よく、そして、伝統からくる重厚さが感じられ、やはり日本の代表的観光都市だと感じました。



〔鎌倉の大仏様〕

北帰行

三月三十一日

この日は私鉄のストがあるというので徒歩で二条城中の羽田を見物してから、旅行最後の館「太栄館」に着きました。又、この晩はこの朝早く解決したということで、全くこのストは一日は一杯くわされました。自由行動では、五、六人づつのグループごとで、思い思いに市内を見物しましたが、ただどうとう舞妓さんを見られなかったのは、心残りでした。そして思い出多い京都も後に、箱根の玄関、熱海へと向いました。

四月一日

四月一日は、朝三時五十分の強風吹きまくる熱海に着き、ここからバスに乗り、箱根を越えて、鎌倉、東京へと向いました。この日は終日バスにゆられるので酔うのではないかと心配されましたが、大した事もなくホッとしました。箱根では高度を増すにつれてガスが深くなり、天下の険の雄大な眺めも残念ながら見られませんでした。しかし、江ノ島ではすっかり、晴れ上がりマリンランドでイルカクジラの曲芸を見物し、又、鎌倉では「御仏なれど美男の大仏様を見て、東京へと向いました。東京では、オリンピックの為、増改築の為、この晩は、この館に理事長の代理の方が訪ねて来られ、ケーキとジュースをいただいたりしました。

四月二日

四月二日は、午前中、最初東京大学、後楽園等を通り国会議事堂と東京タワーを眺望を楽しんだ後、マンモス都市、東京の交通ラッシュを目の当りに見、上野に行き、自由行動になりました。みんなそれぞれの方向に足を向けて最後の自由時間を、東京の名の武装警官を護衛につけてくれた。

その晩、二十三時上野駅を出発、盛岡をたって七日目やっと碓路についたわけですが、車内では、張りつめていた気持も一気にほぐれ、疲れと思い出だけが湧き出ておのずから静粛になせられました。

四月三日

四月三日、午前九時五十三分、全員元気で盛岡に帰って来ました。

映画ストーリー

空と泥

私たちの未知への憧れをみたしてくれる場所は、もうこの地球上にはほとんどないといっても過言ではなくなってしまった。

しかしこの、ニューギニアこそ、その数少ない場所である。面積は、東西の長さが北海道から沖縄までの距離に匹敵し、世界で二番目に大きい島である。この映画は、このニューギニアの奥地に住む未開人の生活を紹介する。

このニューギニアはオランダ領、オーストラリア領とにわかれているが、原住民の生活は石器時代そのままで今なお首狩りを行なっている。

この物語は、一七七〇年クック隊長が投錨したクック湾ぞいのオランダ軍駐屯地を出発点としました。一行（隊長のゲッソー、撮影技師のボルド・バージュ、写真家のソールニエ、無線技師のメグレ、撮影主任のサルトル）にはオランダ総督が、一名の連絡将校と六名の武装警官を護衛につけてくれた。

海沿いの部落ピリマポンでまず一行の目をうばったものは、質を彫刻している一群の土人の彫刻家達であった。彼らは貝殻をつかって奇妙な文様を彫り、その上に指でけばけばしい原色を塗りつけるのであるもちろんこれは装飾用のものではなく、れっきとした部員である。事実、東部でも、もっとも開けていると

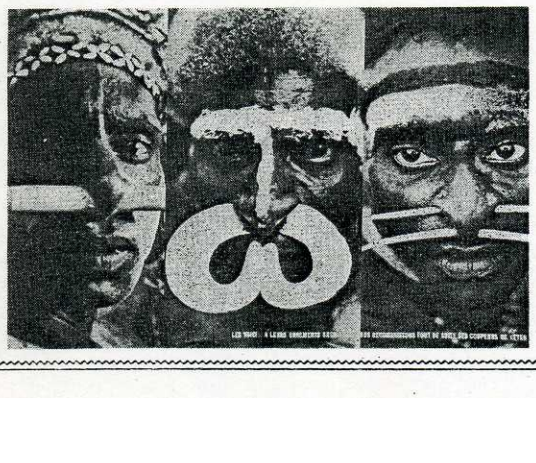
私たちは、ここで一行は魔除けの儀式を見たのである。土人達は奇怪な神像をまつった小屋に集まり、両足のあいだに切りたての首をはさんで座り、夜あけを待つのであった。中には頭骸骨を枕にして横になっているものもいる。その中で悪霊にはいろいろと供え物がささげられる。たとえば、サゴの木ばえ、サゴの木につく芋虫のような虫が悪霊の前に山と積まれたりする。夜があけると人々は、サゴの縄であまれ、入念に彩色された仮面をかぶる悪霊どもを踊りながら村の外に追いだしてしまう。

次の部落でも一行も、また白人が誰一人として見たことのない不思議な儀式に立ち合うことが出来た。これは二つの部落の和解の儀式であった。かつらをかぶり藤蔓の帯をしめた二組のカップルが呼び声をあげながら人々の股のあいだをくぐり儀式のあとこの二組のカップルは人質としてそれぞれの部落へつれ去られるのである。一行はこの部落を離れふたたび川を遡ります。どこからともなくカヌーに乗った一群の土人たちがあらわれ、奇声をあげて一行をみちびいて行くがどこにも部落は見えず、一方どこへつれて行かれるのかわからない。しかし密林の中では、すでにお祭の用意がされ、つの大木の幹に白い粉がふりかけられ、腰巻がまきつけられ、戦死した勇士の霊魂をとどめようというのである。やがて大木は切り倒され、カヌーにのせて部落へと運び去られるこれを見て女たちは川の両岸に集まり、手当り次第に男たちに投げつけるのである。ビッシュとよばれるこの聖なる樹は小屋に運ばれ土人たちの夜を日につぐ作業によって奇怪な船首をもつカヌーに作られるのである。そして勇士の霊はこのカヌーとともに海の彼方へ行くのである。

探検隊はカヌーにのり、両岸にマングローブのしげる川を奥地へとさかのぼってゆくとやがて部落が現われた。人影はなく、おそろしく足場を高く組んだ家の中に入ってみると、頭骸骨がさかさまに吊され、あたりには人間の骨がちらばっている。しかし、しばらくして戻って来た住民達は意外におとなしく、反抗的であった。

ここで一行は、いこの地方でさえ、ごく最近、首狩りが行なわれ、七十三人の首がはねられているのである。

この種族はピグミー族といわれる鉄も知らないまったくの原始的な種族で自分は彼らにとっては宇宙人のようなもので、彼らはラジオ死の国に赴くのである。

におどろき、飛行機を鳥とまちがえて射つ始末。道はいよいよ困難をきわめ、一日わずかに三キロという有様、ユム達の間から最初の犠牲者が出たのである。山を登るにつれ、風景は先史時代そのままの荒涼たるものになり一行は風雨の中を悪戦苦闘の末山越えに成功し、しかもその上、まだ地図にのっていない大きな川の水滴地を見つけたのである。しかし、それからの行程はあらたに困難をきわめ病人負傷者が続出、人のユム人間の耐えうる限界まできていたのである。水上飛行機の救援を仰ぎ、怪我人や病人を助け出した。の後残された一行は最後の意思をふりしぼって遂に横断に成功、北海岸に出る事が出来たのである。七ケ月、一六〇〇キロを踏破したのであった。

オランダの飛行機によって食糧を投下してもらうより仕方がないのである。この山中にも土人が住んでいて、その種族はピグミー族とは、作業によって奇怪な船首をもつカヌーに作られるのである。そして勇士の霊はこの山中にも土人が住んでいて、彼らにとっては宇宙人のようなもので、彼らはラジオ死の国に赴くのである。